

## 防衛的OR

期待していた大型連休も何となく過ぎてしまった。娘は連休を避けて、4月20日頃から友達と九州を一巡する旅行に出かけ、連休前に帰ってきた。そのせいもあってか、わが家の連休はまったく静かであった。

彼女達は飛行機や列車の計画はもとより、長崎の友人とどこで合流して、食事はどの店というふうに細々と予定を組んで出かけた。ところが出発当日のお天気は荒れ模様で、最初の目的地である福岡空港には着陸できなくて、熊本空港に降ろされたそうである。せっかく細々と予定をたてたものが無効になって、行き当りばったりの旅行になったようだ。

この種の計画は一本筋型の精度の高いものを作っても意味がない。やはり、途中のアクシデントに対して臨機応変の動きができるように、分岐型でほどほどの精度で計画をしておくべきであろう。

昨今の世相は、思いもよらぬできごとが次々と起こり、しかもそれが世界中に影響を与えている。イランのアメリカ大使館人質事件、ソ連のアフガン侵攻、またイギリスのイラン大使館人質事件など目がまわりそうだ。また、イギリスは人質の救出に成功して、アメリカは失敗したというおまけがついている。われわれの切なる平和の願いも空しく、国際的な緊張感はますます高まっていることは確かである。

それは刺激されて、日本の自衛問題が再びクローズアップされている。5月12日付読売新聞は読売・ギャラップと銘うって、日・米のナショナリズムを比較していた。それによると“外国の侵攻を受けた場合あなたはどうしますか”という質問に対して、“武器を持って抵抗する”と答えたのが、アメリカ72.8%、日本20.6%となっている。また“安全な場所へ逃げる”および“降参する”と答えたものが、アメリカ9.3%、日本40.6%となっていた。これは私にとってショックであった。

日本人は自分の土地の問題になると、隣家との境界など1cm侵されても大騒ぎをするのに、国境についてはきわめて寛大であるのに驚く。これは私の偏見だろうか。

今日、職場の中をぶらぶら見回っていたら、ORをやっている人から声がかかった。“Mさん、このグラフ面白いでしょう。土地コロガシで儲けませんか”と言って

笑っていた。そのグラフは、最近の土地購入単価とその周辺一定区域の電力需要密度との関係をプロットしたものであった。これに将来の電力需要想定を組合せると、地価の予想ができるだろうというわけである。このグラフはほぼリニアな関係になっていて、面白いと思った。そこでは、私は“儲ける奴は黙って実行するさ。われわれのように、その情報をネタにして議論する奴は、エントロピーを大きくするだけで、後手に回るのがおちだろ”と言ってやった。彼の机の上にはこの種のグラフが多数ちらばっていて、1つ1つ眺めていると実に面白い。彼はそれらに何故そういう関係になっているのか、常識的な解釈を添記していた。たとえば、高圧配電線の延長と電力負荷密度のグラフはロジスティック・カーブになっていた。そして、負荷密度がある程度を越えると地中線に移行するので、このようなカーブになると添記してあった。

これらのグラフは、最近開発した配電関係の予算評価システムのドキュメントの一部なのである。

このシステムの目的は、前にも述べたように国際情勢の動きがめまぐるしく、しかもそれが収支に大幅な影響を及ぼすので、そのつど予算を見直す作業を短時間にやるための道具を作ることであった。ひと口に予算を削減するといっても多くの件名があるので、それを切った場合の影響を評価し被害を最小限に食い止めるという作業は、従来のような人海戦ではとても考えられないことである。しかも、公平さと一貫性を要求されるので、このようなシステムを考えたのであるが、前記のような変数間の関係をサブ・モデルとして多数組合わせたシミュレーション・モデルができ上がった。

このシミュレーション・モデルは半製品のうちから実戦に利用された。こういう時代には、どう変化するかわからない諸元に対して、ほどほどの精度のデータで計画はたてておいて、その後の変化に対して臨機応変の対策を速やかに打出すという、防衛システムの考え方も1つの行き方であろう。ORはこの種のシステム作りにおいても強力な武器となり得る。

(M. M.)